

## 長期欠席児童生徒数と相談件数の推移

長期欠席児童生徒については、長期欠席理由として「病気、経済的理由、不登校、その他」の4つに分類されている。

年間30日以上欠席をした児童生徒をいずれかの理由に分類され、平成30年度の内訳は

- ① 病気 小学校 258名、中学校 328名
- ② 経済的理由 小学校 0名、中学校 0名
- ③ 不登校 小学校 479名、中学校 1506名
- ④ その他 小学校 77名、中学校 48名

となっている。

本市では、不登校、いじめ、体罰等の相談窓口としてこうべっ子悩み相談いじめ・体罰・こども安全ホットライン等の電話相談や面接相談の窓口を設置している。

教育相談指導室と青少年補導センターに寄せられた、不登校の相談と長期欠席児童生徒の過去5年間の推移は次のとおりである。

神戸市	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
不登校児童数【小】 (人)	132	165	213	397	479
1000人あたり (人)	1.7	2.2	2.9	5.2	6.36
不登校生徒数【中】 (人)	908	947	1,017	1,334	1,506
1000人あたり (人)	25.0	26.3	29.1	37.9	44.1

全国	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
不登校児童数【小】 (人)	25,866	27,581	30,175	34,732	
1000人あたり (人)	3.9	4.2	4.7	5.5	
不登校生徒数【中】 (人)	97,036	98,428	98,956	104,295	
1000人あたり (人)	27.6	27.2	31.4	33.8	

神戸市相談状況		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
教育相談 指導室	面接 (回)	1951	1803	2088	2294	2539
	電話 (件)	190	181	161	141	243
青少年補導センター (件)		6,070	7,733	9,625	11,697	10,238

※全国的に不登校児童生徒は増加傾向にあり、本市においても同様に増加傾向である。